

施策名：国際の平和と安定に対する取組

個別分野8：ジェンダー平等の実現に向けた国際協力の推進

中期目標

- 1 国際会議や多国間協議は、女性のエンパワメントの促進・ジェンダー平等実現のための政策や課題について議論を行う場であると同時に、我が国の取組をアピールする上でも、また、我が国のジェンダー平等の促進に資する国際的な取組を国内向けに発信する上でも重要である。そのような場で、ジェンダー平等の実現に係る国際的議論に引き続き積極的に参画するとともに、我が国が国内外で行っている女性のエンパワメント促進・ジェンダー平等実現に向けた取組を積極的に発信することにより、我が国のジェンダー分野における国際的なプレゼンス維持・向上を図る。また、国内のジェンダー平等実現に資すると考えられる国際的な取組については、関係省庁と連携しつつ国内向けにも積極的に発信していく。
- 2 国際機関や実施団体等と連携し、また、国内においては市民社会や有識者等と協力することによって、国際社会においてジェンダー平等と平和構築に資する施策を推進し、国内外におけるジェンダー平等の一層の定着を図る。

過去3年度（令和3～5年度）の主な取組

ジェンダー平等の実現に向けた国際的議論への参画・対外発信

- 国際女性会議WAW!2022を開催。「新しい資本主義に向けたジェンダー主流化」をテーマに議論。ジェンダー平等が実現されたより良い社会作りへ貢献した。（[詳細](#)）
- 2021年9月に第9回政府報告書として女子差別撤廃条約の実施状況を提出。条約の誠実な履行を通じ、ジェンダー分野の国際的なプレゼンスを維持した。（[詳細](#)）
- 英・独議長下G7のジェンダー議論に貢献。議長年の2023年は、首脳コミュニケで3パラにわたりジェンダー主流化促進の重要性に言及した他、ファクトシートを発出し、関係閣僚会合でも議論。G7首脳に提言を行うGEACを招集。GEACは、岸田総理に対し、5月に提言サマリーを、12月に最終報告書を提出した。以上の取組を通じ、国際社会におけるジェンダー平等推進の取組を前進させた。
- 伊・尼議長下G20のジェンダー議論に貢献した。また、民間セクターのネットワークであるG20EMPOWERの活動を積極的に推進した。2023年8月、印議長下で「世代間変革を先導する女性主導の包摂的な開発」をテーマに女性活躍担当大臣会合が開催された。G20ニューデリー・サミット首脳宣言では、女性及び女性の経済的・社会的エンパワメントの強化や、ジェンダー間のデジタル・ディバイド是正等の重要性を確認した。官民連携を基盤としながら、女性の経済的エンパワメント等の推進に貢献した。
- 毎年3月に開催される国連女性の地位委員会（CSW）では、日本は一般討論及び閣僚級円卓会合にてステートメントを三年連続で発出した。各国のジェンダー分野の施策について知見を共有し、国際社会におけるジェンダー平等推進に寄与した。

今後の方向性

- 日本を含む国際社会において、ジェンダー平等が十分に達成されていないところ、G7、G20及びCSW等の国際会議の議論に引き続き積極的に参画し、ジェンダー分野における我が国の国際的なプレゼンスの維持・向上を図りながら、海外の議論を国内にも共有し、国内外におけるジェンダー平等及び女性のエンパワメント推進に貢献する。
- 特に、ジェンダー分野における国際的なネットワークの構築や日本国内における人的資源の底上げを強化する。

過去3年度（令和3～5年度）の主な取組（続）

「女性・平和・安全保障(WPS)行動計画」に資する政策の推進

- 令和5年度、上川外務大臣のリーダーシップの下、人間の安全保障の考え方を踏まえつつ、WPSを主要な外交政策の一つとして力強く推進し、災害対応を含む持続可能な平和の構築に貢献した。（[詳細](#)）
- 令和5年4月、日本のWPSアジェンダ推進の基盤となるWPSに関する第3次行動計画を策定し、WPSアジェンダの実施を促進した。（[詳細](#)）
- 令和5年9月以降、バイ・マルチを問わずあらゆる機会を活用して、WPSの重要性を積極的に発信。「WPS+イノベーション」と銘打ち、様々なステークホルダーとの対話を重ね、WPSアジェンダを推進。この対話は、令和6年3月末までに5回開催した。（[詳細](#)）
- 令和6年1月、「WPSタスクフォース」を立ち上げ、WPSに関する組織横断的な取組を推進している。
令和3年～5年度の3年間で、紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表（SRSG-SVC）事務所に対し約245万米ドル、紛争関連の性的暴力生存者のためのグローバル基金（GSF）に対し計600万ユーロの拠出。加害者不処罰の終焉、被害者支援に貢献した。
- 令和3年～5年度の3年間で、国連女性機関（UN Women）に約5,349万米ドルの拠出。同機関と連携し、とりわけ、開発途上国の女性・女兒に対する支援や、紛争や自然災害の影響を受けた女性・女兒に対する経済的エンパワーメント支援を実施。毎年実施される日・UN Women政策協議では、同機関との協力関係を一層強化。脆弱な立場に置かれた女性たちのエンパワーメントに寄与した。
- 令和3年～5年度の3年間で、WPSに関するウェビナー及びパネルディスカッションを開催。また、国際女性会議WAW!2022において、ノーベル平和賞受賞者のムクウェゲ医師等を招き、WPSに関する分科会を開催。以上の取組を通じて、ジェンダー主流化及びWPSアジェンダ推進に寄与した。

今後の方向性（続）

- 紛争や大規模自然災害により、多くの国々で既存のジェンダー不平等が悪化しているところ、女性や女兒の保護や救済に取り組みつつ、女性自身が指導的な立場に立って紛争の予防や復興・平和構築に参画できるようWPSに関する施策を引き続き推進していく。
- 第一に、WPSの重要性を国内外に発信するとともに、各国とのネットワークを強化する。第二に、紛争や災害など様々な国において女性や子どもを含む脆弱な人々が悲惨な状況に直面している中、「WPS in Action」として、WPSの視点を踏まえた具体的な支援策を実施できるよう取り組む。
- また、国連女性機関（UN Women）、紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表事務所（OSRSG-SVC）、紛争関連の性的暴力生存者のためのグローバル基金（GSF）への拠出等を通じて、引き続き脆弱な立場にある女性・女兒に対する支援を推進していく。
- WPSの推進は、専門家の間では認知されているものの、各国の協力やネットワーキングは十分に進んでいない。これまで、バイ・マルチを問わずあらゆる機会を活用してWPSの重要性を発信するとともに、様々なステークホルダーとの対話を行ってきたことにより、二国間や地域間での協力に関する積極的な提案が提出され始めたところ、今後各種取組を発展させていく。

評価結果

新型コロナウイルス感染症、紛争、大規模自然災害等により、既存のジェンダー不平等が世界中で一層悪化する中、G7及びG20を中心とした国際社会におけるジェンダー分野の議論に参画することにより、ジェンダー主流化、WPSアジェンダ及び女性の経済的エンパワーメント等を推進し、ジェンダー平等の達成に向けて貢献。一方で、日本も含めた国際社会においてジェンダー平等が十分に達成されていないところ、ジェンダー平等及び女性のエンパワーメントのための取組の加速化が求められている。

次回評価時（令和９年度）に向けての中期目標

ジェンダー平等及び女性のエンパowerメントの推進に関する国際的議論に参画するとともに、WPSアジェンダを一層推進することにより、国際社会のジェンダー分野における日本のプレゼンスを向上させつつ、国内外におけるジェンダー平等及び女性のエンパowerメント推進に貢献する。